

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200090		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター龍神	【ユニット名:ふらわあ】	
所在地	〒645-0417 和歌山県田辺市龍神村柳瀬 1143-1		
自己評価作成日	平成24年6月11日	評価結果市町村受理日	平成24年7月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3092200090&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成24年7月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の関係諸機関の協力をお願いし、地域の方々との交流を行う機会を多く持つように取り組んでいます。自分が持っている能力を充分に発揮できる環境を整え、毎日を意欲的に楽しく過ごしていただけるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間地に位置する2階建て2ユニットのホームである。全国組織の法人のグループホームであるが、地域に応じた独自性を生かそうと努力し本部にも働きかけている。その成果が実り、今まで法人の方針で入居者を職員が運転する車に乗せることができなかったが、地域の状況に配慮して2種免許保持の職員の運転で可能になり5月に車が支給され、行動範囲が広がった。近隣の社会福祉協議会との連携で、支援ハウスとの交流や行事等への協力が得られている。遠くの家族も参加しやすいよう家族会とイベントを一緒に開催し、和室を提供して宿泊もできるよう配慮している。また、月1回の「龍神だより」を発行し、写真や職員の言葉を載せて家族にホームの様子を伝えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な環境と地域の方々との交流の下でも笑顔を保ち、ご入居者がそれぞれの能力に応じた日常生活を送れるように支援させていただきます。」 毎朝朝礼で唱和し実践するようにしています。	職員全員で話し合い地域密着の意味を新たに加えた基本方針を作成し、自分の家族が入居しているつもりで入居者に接することを旨としたケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には加入していませんが、行政局近隣の社会福祉協議会・小学校・施設・老人会等との交流を行っています。 スタッフのうち21名が龍神在住で、龍神地域のローカルな会話が成り立っています。	地域住民との交流を図って年に1回「ニチイ祭り」を開催しており、前回は救急救命についての講習を行い、次回は地域の人も交えての、夏の盆踊りを計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元在住のスタッフが多く、地域の方々との会話の中で、実際の介護上の悩み等を聞き、必要に応じてアドバイスを行っています。悩みを抱えて見学に来られた方々にも、じっくりと話を聞き、必要に応じてアドバイスを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	非常災害や利用者へのサービスについてアドバイスを頂いています。	行政、自治会、地域の各施設の関係者が参加しており、行政から地域の関係者への情報提供の場ともなっている。日程の調整がつかず、家族の参加は得られておらず、入居者の参加もみられない。	家族が参加しやすいよう開催の曜日や時間を工夫することが望まれる。入居者も何らかの形で会議に参加できることに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	龍神行政局の福祉課長が運営推進会議のメンバーに入ってくれています。 田辺市やすらぎ対策課の担当者とも連携を取っています。	運営推進会議を通して龍神行政局の福祉課との協力関係が築けている。田辺市やすらぎ対策課にも機会あるごとに足を運び連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が中心となり定期的な研修を行っています。 スタッフがお互いに意見交換しながら身体拘束の無い支援の取り組みを行っています。	身体拘束をしないケアに取り組み、以前見られたユニット入り口の施錠も現在は行われていない。薬についても専門医に相談して本人の負担にならないように調節している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止については、スタッフ同士常に意識を高く持ち、気が付いた事は管理者に報告、質問があります。 そのたびに、スタッフ全員で共有し身体拘束・虐待防止の取り組みを行っています。		

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ふらわあ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ必要な方は発生していませんが、介護保険制度等の研修の中でスタッフにも知識として伝えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、納得してもらってから、印鑑を頂きます。読み返して質問があれば、後日でも再度質問をもらい、説明をしますと伝えます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に一度家族会を開催します。なかなか全員参加となりませんので、面会に来られたときに、出来るだけじっくりと話が聞けるようにしています。	家族会とイベントを組み合わせ、家族がグループホームに来やすい様工夫している。家族が訪問した時に気になることを話し易いよう配慮して応じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフからの意見や提案は、出来るだけ全員の物となるように、業務ミーティングに提案してもらい、調整を行ないます。	月に1回フロアミーティングを行い、職員からの提案も良く出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度や、各自の役割を明確にして、意欲的に勤務出来るように工夫しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修の機会を設けています。近隣の施設の研修にも参加出来るように連携をとっています。外部研修の情報を伝えて、積極的な参加の促しを行います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の施設や関連諸機関との交流、勉強会には参加しています。		

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ふらわあ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	こまめに自宅を訪問しご本人にはじっくりと話を聞きます。 何回か顔を見せる事により安心していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに自宅を訪問して、じっくりと話を聞きます。 出来るだけ安心感を持ってもらえるようにアドバイスも行います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅のCMとの連携を密に取りながら対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての尊敬の念を忘れないように、自分の仲間のように、又自分の子供や孫のように思ってもらえるような関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに入居されるまでは、精神的に追い詰められた状況であったが、ホームに入居された後、面会に来られた時は、穏やかな気持ちで会話をされている場面が多くあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他施設のイベントに参加したときや、散歩の途中に、昔からの友人と出会うことがあります。 自分が若かった頃の地域の話聞きながら散歩をします。	地元出身の入居者には今までのなじみの関係を継続しやすいが、遠くからの入居者も、今までの馴染みも大切にしながら、近隣での新しい馴染みの関係を大切に築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事を手伝ってもらう時や、イベントへの参加等、出来るだけ会話が出来るように工夫します。 各自の性格等色々な事情がありますが利用者同士のフォロー体制も見られます。		

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ふらわぁ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなったり、他施設への転居が主な退去理由です。 認知症状が改善されたり、本人の希望で退去となった方については、定期的に状況確認を行います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの暮らし方については、ご本人が安心して過ごせるように工夫しています。 自宅に帰りたいという意向に関してはなかなか思い通りにはかなえられず、ホームの暮らしが気に入ってもらえるように支援するしかない状況です。	入居者には担当職員を決め、本人の思いや意向の把握に努めている。朝食の時間帯、昼食後、レクリエーションの参加等は本人の意思を尊重している。週に2回の移動販売があり、それぞれに好きな品物を買っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問時にある程度の話は聞きますが入居されてから、ご本人との会話の中でも把握出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人が自宅で過ごしていたペースで過ごしていただけるように工夫しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人が意欲を持って楽しく安心して暮らしていただけるように、本人・家族・スタッフ・必要な関係者との調整は行なっています。	日常生活支援シートを作り、入居者のケアについて、職員の意志の統一を図っているが、介護計画のサービス内容は具体的でなく、個別のケアへの職員の認識が得られにくい面がみられる。	意欲や自信を引き出すなど個々の入居者の心理面にも目を向け、具体的な計画を作成し、職員が共通認識を持ってモニタリングやカンファレンスに参加できることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子についての気づきを共有し、業務ミーティング時に話し合ったり、その都度の調整は行なっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の関係諸機関と連携し取り組んでいます。		

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ふらわあ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物・地域のイベントに参加など地域資源の情報をこまめにキャッチし支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医については定期的な往診がありません。 メンタル的な受診については、出来るだけスタッフが同行し、日頃の状況を詳細に伝えるようにしています。	月に1回協力医による往診を受けている。かかりつけ医への受診の際は、家族と同行しグループホームでの様子を伝えている。歯科医の訪問による口腔ケアの指導も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回や緊急時の訪問看護を利用しています。 各利用者担当スタッフが状況を記入し、訪問看護からのアドバイスを記入してもらう帳票にて、スタッフ全員で共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	営業を含めて各病院の地域連携室とは交流があります。 入院時・退院時には調整を行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には十分理解してもらっています。 出来る限りホームで終末期を過ごしてもらう取り組みは行っていますが状況的に、受け入れ困難な方も発生しています。	看とりの経験はあるが、地域に医師が少ない為、他の施設に移った人もいる。職員は研修を受け、訪問看護師とも連携している。必要な時期に家族と話し合うようにしている。	グループホームで出来る事、出来ない事を家族に説明し、十分話し合っ入居者にとって一番良い環境を整えることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応については訓練を行っています。 119の要請時には慌てないように、必要事項を的確に伝える工夫を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っています。避難先は社会福祉協議会と連携しています。 非常食・緊急持ち出し袋を準備しています。 昨年の台風被害時は地域との連携が出来ました。	夜間を想定した火災訓練を年2回行い入居者も参加している。台風12号の災害時には、地域が孤立したが、地域内で協力して食材など融通し合い乗りきった。	

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ふらわあ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊厳とプライバシーへの配慮について、スタッフ全員が認識をしており、言葉かけには十分に留意しています。	入居者を尊重し話をよく聞くようにしながら、苗字ではなく親しみを込めて下の名前で呼びかけている。トイレ誘導はプライバシーと羞恥心に配慮してそっと行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の希望があっても言葉に出来ない利用者が多く入居されています。出来る限り表情や態度で察知出来るように努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事については2時間程度の遅れは待つようにしています。入浴については職員の体制上、昼間に入ってもらえます。そのほかの時間は自由に過ごしてもらいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カットや近所の理髪店を利用します。皆さん楽しみにしています。衣服については、限られた選択ですが出来るだけご本人の希望を聞きます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	移動販売で食材を購入し、調理に参加してもらう事があります。後片付けも手伝ってもらいます。一緒に食事は、昼休憩や食材料費負担の事も出来ていません。	入居者が手伝うことへの配慮も少しはみられるが、職員が入居者のために用意し、介助以外の職員はテーブルについていない。菜園の野菜も食卓に上がり、気分を変えて、テラスで食事をすることもある。	食事に関する一連の作業をケアの一環と捉え、入居者と準備と一緒に食卓を囲んで食事を楽しめる工夫が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来るだけバランスの良い献立の工夫を行っています。食べやすい工夫もしています。介護記録にて食事量や水分摂取量の把握を行なっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者の能力に応じた口腔ケアを行っています。歯科医師・歯科衛生士による研修も行いました。		

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ふらわあ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用している利用者も、排泄のパターンの確認を行い、出来るだけトイレで排泄が出来るように支援を行っています。	入居者自身の「履きたい感」を大切にして、ケアしている。オムツから、パンツになった入居者もいる。本人の残存能力に合わせて、パンツにパットを使う事もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヤクルトを飲用してもらっています。ご本人なりの運動も行ってもらいます。水分補給も出来るだけしてもらいますが便秘症の方が多く、連携医と訪問看護との連携で整腸剤や通じ薬も服用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助を必要とする方がほとんどで、スタッフの勤務体制の都合により利用者個々の後方には添えない状況となっています。日中週2回から3回のペースです。	日中の時間帯で一人につき隔日のペースで入浴できるよう支援している。入浴の嫌いな人にもタイミングをみてさりげなく声かけして入れるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後口腔ケアを終了して一応パジャマに着替えてもらいますが、眠くなるまで自由に過ごしてもらいます。朝も好きな時間に起きてもらいます。夜間も眠れなければ夜勤のスタッフとリビングや居室で過ごします。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局との連携で理解ができています。服薬は飲み込みまでの確認を行い、症状の変化があれば報告をもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員とはいきませんが各自役割があり、意欲的に生活できています。散歩や畑仕事・レク等の工夫を行っています。花見や紅葉見物等にも出かけます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	他の利用者の状況で、スタッフが外出に付き添えない場合もありますが、ほとんど希望通り出掛けています。ご家族もドライブに連れて行ってくれたり協力してくれています。	春には龍神温泉へ花見に出かけた。車で出かけられるようになり、グラウンドゴルフの練習に参加し地域住民との交流も広がった。近くの小学校への訪問や喫茶店へモーニングを食べに出かけるなども計画されており、活動範囲の広がりが期待できる。	

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ふらわあ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が所持すると紛失の可能性が大いにあります。お小遣いは事務所金庫で保管し、必要に応じて自分で支払えるように手伝います。小遣い帳を作成し、領収書とあわせて、ご家族に確認してもらいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応します。ご家族からの電話があればいつでも取り次ぎます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ています。	居間は床暖房の設備で冬は暖かく、壁には季節の地域の風景の写真や季節の装飾が施されている。テラスにはベンチが置かれ、金魚の水槽が眺められる。居間の隣には畳の部屋があり、昼寝をするなど、くつろぎの場として活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの椅子の配置の工夫をしています。自由に居室に戻れるように、常に状況の把握を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトについてはご本人・ご家族に任せています。	居室の入り口には、本人や家族が名前を書き入れた表札が掲げられている。居室は個々に工夫されており、仏壇や家族の写真等入居者の馴染みの品物を持ってきている入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカ・リビング等共有スペースの随所に手すりを設置しています。トイレの位置が分かりやすい工夫や、車椅子でも利用できる洗面所の工夫があります。段差が無く、エレベーターの設置もしています。		